研 修 名	八女市ふるさとタクシー ～ ドア ツー ドア方式の乗合タクシー ～
講　　師	八女市企画部商工振興課商工振興課長　山口幸彦 氏 〃　　公共交通政策係　鹿田　純 氏 八女市社会福祉協議会 　八女乗合タクシー予約センター所長　中島　強 氏
研修日時	2022年8月5日(金)10:00～12:00
研修場所	八女市黒木支所第6会議室・予約センター
参加者氏名	栗東市民ネットワーク会派 ・上石田昌子　・林 好男　・田村隆光（以上3名）

◆ 内　　容 ◆

（1）八女市の概要

福岡県の最南部に位置する人口約6万人のまちで、これまで何回かの町村の合併により広大な面積（県内2位）を持つまちとなった。

市長は、現在4期目の三田村統之氏。

一方、議会は条例定数は22名だが、在籍は20名。うち一人を除き19名は60歳以上（うち70代は6人）。

常任委員会は総務文教、厚生、建設経済の3つ。

財政規模は、2022年度の一般会計で約400億、特別会計を合わせると550億円の規模。議会費は年間2,200万円ほど。このうち議会広報の印刷費は270万円ほどで、22,500部を市内全戸および市内の公共施設に配布。

位置	福岡県の南部、福岡市から南へ約50キロメートルに位置し、北は久留米市、広川町、西は筑後市、南は熊本県、東は大分県に接する。
地形	県境に位置する三国山（筑肥山地）から流れ出る矢部川は日本最大の干潟を有する有明海に注ぐ。 矢部川の支流、星野川と合流する地点より西側に開けた扇状地、北を広川丘陵、東を八女山地、南を筑肥山地に囲まれ盆地的地形を有している土地である。
面積	平成22年の近隣2町2村との合併後、482.44平方キロメートルとなり、総面積県内2位に。
人口	2022年6月末時点　61,047人
産業	八女茶や電照菊やあまおう(イチゴ)など全国ブランドの農産物をはじめ、仏壇・提灯・手すき和紙、石灯ろうなどの伝統工芸品の産地
交通	市の中央部を国道3号線が南北に、国道442号が東西に走り、西端には九州縦貫自動車道が通じ、八女インターチェンジがある。鉄道はない。

八女市のHP　　八女市議会のHP

(2) ふるさとタクシーについて

1．事業の背景

広大な山間地域を抱え、全国平均を大きく上回る高齢化（高齢化率36.2%：65歳上22,222人）が進む中、定住自立圏構想の柱の一つである地域公共交通の維持・確保を図るため、既存の路線バス、患者輸送車、福祉バス等の地域生活交通を抜本的に見直し、デマンド交通を導入。

この新しい交通システムを活用し、市内に点在していた交通空白地域の解消を図り、安全安心のまちづくりを支えるため。

2．事業の概要

事業主体	・八女市 ・八女市地域公共交通協議会
事業形態	・平成24年度から本格運行
運行方式	・電話予約によるドアツードア方式の乗合タクシー
運行内容	・市内11エリアのアリア内移動を原則に平日のみ８便運行
運行台数	・16台（10人乗りワゴン型タクシー）
委託業者	・予約受付・配車等運行管理業務は、八女市社会福祉協議会 ・車両運行業務は、タクシー会社3社、バス会社1社、その他1社の計5社 ・予約配車システムは、NTT西日本
利用方法	・事前登録 ・電話で予約 ・玄関から玄関まで送迎
利用料金	・片道300円（エリア越は400円）
利用見込	・1日151人、年間37,189人（R2年度実績は、36,435人）

▲事業の内容を丁寧に説明くださいました。

▲予約センターの内部。4名のオペレータの方が予約と配車に対応されており、地元の方言と優しい対応が印象に残りました。

▲NTT西日本のシステムでタクシーの現在地がGPSで確認でき、登録者の住宅と大きな施設はすべてインプットされており、配車の段取りや運行状況も一目でわかります。

3. 初期投資と維持管理経費

① 初期導入経費と財源

・予約システム＝48,825千円
うち一般財源＝12,043千円（2期分）
・補助金＝地域公共交通活性化再生総合事業補助金」、「地域活性化経済危機対策臨時交付金」、「定住自立圏整備基金」の3種を活用。

② 維持管理経費と財源

・年間維持費は、補助金込みでＲ2年度は、84,753千円、Ｒ3年度は車両3台を増大したため、120,925千円
・財源は、Ｒ2年度からは特別交付税、国県補助金および一般財源（20,422千円）で対応。

▲乗合タクシーの運行エリア地図

4．利用方法

① 事前登録
・誰でも可。市民以外も登録できる
・1.5万人（人口の24.3%）が加入

② 予約センターに乗車希望時間の30分前までに電話
（予約時間＝7:30～16:30）

③ 1回の乗車に300円
エリアを超えての利用も可。ただし、400円。

5．現状と課題

＜現状＞

・導入から22年目。利用者の多くは80才以上の高齢者が多く（51%）、病院や買い物、年金の引き出しなど生活パターンがある程度決まっている。そのため利用者の生活情報が予約センターのオペレータやタクシー運転手に集まり、見守りの役割もしている。運転手やオペレータが利用者の生活の変化に気付いたときにはケアマネージャーや福祉関係者に連絡を取っている。

・乗り合いタクシーが運行されたことで高齢者の外出の機会が増えている。高齢者の自立が促され、機能訓練となっている。

＜課題＞

・利用者が高齢者に偏る。
・乗車人数がコロナ禍で制限もあるが年々減少傾向にある。3台増大した分、現状の倍ほどは利用してほしい。（目標＝1台20人／日・・・・16台＝1日320人）
・タクシーのドライバーの高齢化も課題
・運行ルールや路線バスとの連携

▲トヨタハイエースを使用。この車両の形式は本年度から製造中止のため次期車両の検討も必要

▲市内を11のエリアに分けて運行しています。

【総括】

数回の合併を繰り返していることから旧在所に市役所の支所が存在する八女市。

全国的にも超高齢社会を迎え、自動車の運転が出来なくなる高齢者が増えてくる中、八女市も御多分に洩れず、市民の移動手段の対応策に頭を抱えらておられた。

しかし、八女市のドアツードアによる移動の自由を確保する一つの在り方としては十分検討に値する。特に「バスはバス停で」とか「バス停は移動しない物」といった既成概念を取り払い、どうしたら市民が喜んでくれるのかを主体的に考え、タクシー事業者との連携、登録制と年会費性なども考慮し、今の時代の新しい移動手段を見出す必要がある。そして、「集まる場所を作る」との考えと移動の際のコミュニケーションなど公共交通機能の持つ可能性は高い。

本市でも重要な公共交通の問題。本視察を参考に1歩前進させたいと感じた。

視察に快く、そして丁寧に対応くださった八女市の皆さんありがとうございました。

▲乗合タクシーの説明ビデオ